NIE実践報告

１．タイトル：小中の交流授業にNIE

２．学校名

東京都武蔵村山市立小中一貫校村山学園

３．実践者名（代表者名）

熊谷　浩

４．学年

中学校２年生

５．教科・領域名および受講児童・生徒数

国語　中学生３０名

６．単元（本時の学習課題）名

中学校２年生「NIE～新聞を読んで伝えよう～」

７．目標(狙い)

○自分の考えを小学生に向けて工夫して発表することができる。（話すこと・聞くこと）
○書いたものを発表し合い表現のしかたに着目して助言し合うことができる。（話すこと・聞くこと）

８．評価の視点

○話す速度や音量、間の取り方などを対象に合わせて工夫しているか。
○より分かりやすく伝える発表の工夫を学ぼうとしているか。

９．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

○中学校……３時間扱い。提示された新聞記事から自分の意見を持ち、原稿にまとめる。資料を別に作成するなどして、発表の準備をする。学級の中でスピーチをする。後日、小学生に向けてスピーチをする。

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

一番のねらいは、小学生と中学生がそれぞれの国語のねらいを達成できるような交流授業を計画することであった。
　小学校の教員と相談し、６種類の新聞記事を用意。（内容は経済、社会情勢、時事問題など）その中から興味がある新聞記事を選び、その記事に対して感じた自分の意見をまとめさせた。（第１時）
　まとめた意見を参考にして、スピーチ原稿を作成した。（第２時）
　スピーチの対象が小学生ということもあり、難解な用語を平易な語句に言い換えたり、小学生にとって聞き取りやすいように話す速度や音量を工夫したりすることを特に意識させた。
　国語科の中で、スピーチテストを実施。対象を意識した話し方になっているかどうかを重点的に評価した。（第３時）その中から数名を選抜し、後日実施された小学生との交流授業でスピーチをさせた。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

○新聞を教材に用いることに対しては、過去にも数回実施しているため、抵抗が少なくなってきているように感じた。対象に合わせて工夫する難しさと重要さを実感した様子であった。

12．成果と課題

○新聞記事を教材に用いることで、生徒の授業への意欲が向上した。さらに、社会に対して目を向けられるようになった。また、新聞記事について生徒同士がコミュニケーションをとって意見を交わすようになった。
○年間を通して計画的、継続的にNIEについての活動を行うと、より新聞が生徒にとって親しい存在となるように思う。しかし、そのためには生徒に新聞についての管理を徹底させる必要がある。